

高瀬恭介先生定年退職記念号に寄せて

経済学部長 大 林 弘 道

高瀬恭介先生は、平成 14 年 3 月 31 日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は熊本県八代市にお生まれになり、昭和 19 年に熊本県立八代中学校（旧制）に入学され、学制改革により 4 年終了の昭和 23 年 4 月に同八代高等学校（新制）2 年に編入学されました。同高等学校卒業後、昭和 25 年 4 月に九州大学経済学部に進学され、昭和 29 年 3 月に同学部を卒業されました。同年 4 月直ちに第一銀行に入行されました。そして、営業部外国課で研修期間を過ごされ、昭和 36 年 5 月に、先生の本来の志望であった調査部調査課に移籍されました。それ以後、昭和 61 年 10 月に同銀行を退職し、次いで同 11 月に第一勧銀経営センター取締役役に就任され、さらに平成 2 年九州国際大学国際商学部教授に就任されるまでの期間、一貫して調査業務に従事されておりました。その成果は内外マクロ経済、金融、企業経営に関する研究および評論活動となって世に問われることになりました。初期の頃よりご勤務先の「第一銀行調査月報」「第一勧銀産業調査資料」その他の専門誌に最新時の金融情勢や金融問題の分析・論評を発表されておりましたが、昭和 60 年頃より、プラザ合意による円高を挟んだ金融自由化からバブル経済に至る過程を金融変革として捉え、「経済評論」を中心に次々と論文を発表され、金融問題の所在を鋭く指摘し、広く社会に啓発・警鐘に努めてられました。それらの論文は昭和 63 年『金融変革と金融再編成』（日本評論社）として纏められ、それにより平成 4 年九州大学から博士（経済学）の学位を授与されました。

その後、平成 5 年に千葉経済大学経済学部教授に就任され、さらに、平成 9 年本学経済学部教授に就任されました。その間、1990 年代の金融変革の世界的急展開を踏まえ、その理論化・体系化をめざして、平成 7 年には『金融変革と銀行経営』（日本評論社）を出版、平成 11 年上記著書に新たな考察の成果を加筆され、新版として刊行されました。

以上の先生のご経歴から分かりますように、先生は大学で学ばれた経済学を理論に止めることなく、金融の現場の実際の中で検証し、金融についての理論と実証にわたる経済学を再構築し、後年再び大学でそれを若い世代に伝え、教授してきたことができます。最終講義の日、講堂を埋める多数の学生が金融経済の理論と実態に通暁された先生の講義を真剣に受講していたことが思い出されます。また、先生は日頃会議などでは積極的に発言される方ではありませんでしたが、ゼミナールの学生などとは、熱心な指導と相まって、コンパなどにも親しく付き合われている楽しげな姿をしばしばお見受けしました。地方の旧家に生まれ育った先生の人を育てる熱心なお気持ちの表れと推察しておりました。

定年ご退職後も先生には本学経済学部の非常勤講師をお願いしておりますが、今後とも健康にご留意され、困難の増す金融情勢の分析にお元気にご健筆を振られますようご期待申し上げます。